

市立

いちかわ

自然博物館だより

平成29年(2017年)

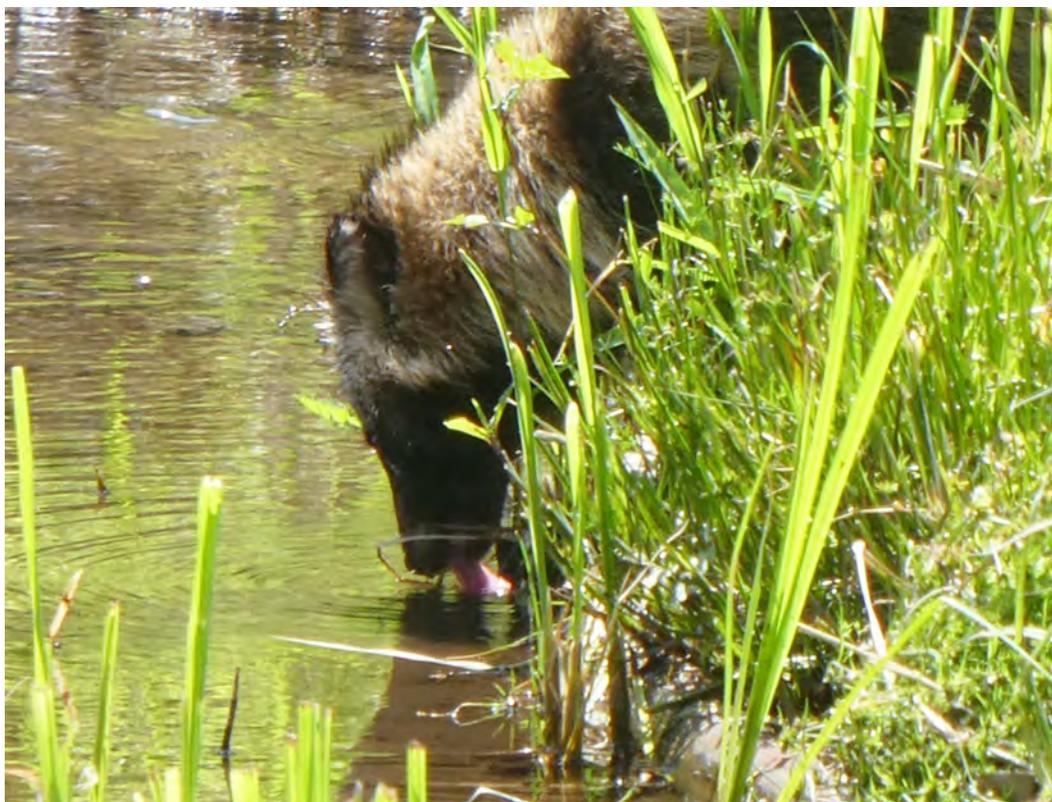
6-7月号

(通巻 170号)

2017年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



自然博物館収蔵写真

タヌキ

日中、大町公園の自然観察園で出会いました。草が刈られた水路沿いを歩いてきて、やがて水を飲み始めました。

P 1 ☀️ いきもの写真館
タヌキ

P 2 ☀️ 長田谷津を解剖する
水路の状況

P 4 ☀️ 身近なところに花鳥風月
ネモフィラ

P 5 ☀️ 街かど自然探訪
平田・地下に造られる道

☀️ くすのきのあるバス通りから
ヨヅナサガメがいました

P 6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
アシダカグモの餌さがし

P 7 ☀️ わたしの観察ノート
3月～4月の記録

P 8 ☀️ 行事案内

長田谷津を解剖する

－水路の状況－

数が減った水路

長田谷津ではかつて稲作が営まれ、谷底一面に稲田が広がっていました。その時は斜面裾の湧き水が水路で集められて田んぼへ流され、田んぼの水は中央水路に落とされて下流へ流れていきました。水が張られた田んぼと水路で、谷底の大部分には水面が広がっていました。

その後稲作ができなくなり自然公園になりましたが、その時から、農家の人が行ってきたようなきめ細かい管理も行われなくなりました。そのことは決して悪いことではなく、それまで「雑草」として扱われた野草が繁茂し花を咲かせました。昆虫なども種類を増やしたでしょう。ですが一

方で草刈りや水路の浚渫などが十分には行われなくなり、そのまま数十年も経つと、田んぼだった場所には枯れた草が積み重なり、水路には雨で流れ込む土砂が堆積しました。湧水が埋まり、水路も埋まっていきました。

図01は、2000年と2017年の水路の状況を比較したものです。誰の目にもはっきりとわかる水の流れだけを図示してありますが、2017年では水路の数が減り、水の流れが単純化したことがわかります。湧き出す水の量に変動はないと考えられるので、たくさん水が「地下水」化して埋まった湿地や水路の中を移動するようになったわけです。地表を流れる水は生き物が利用可

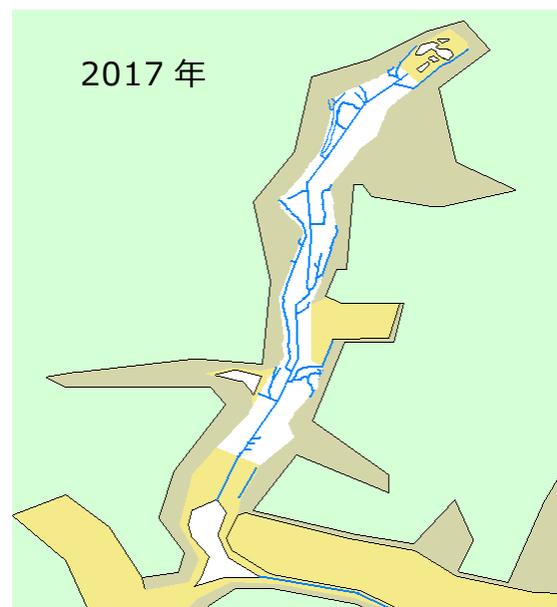
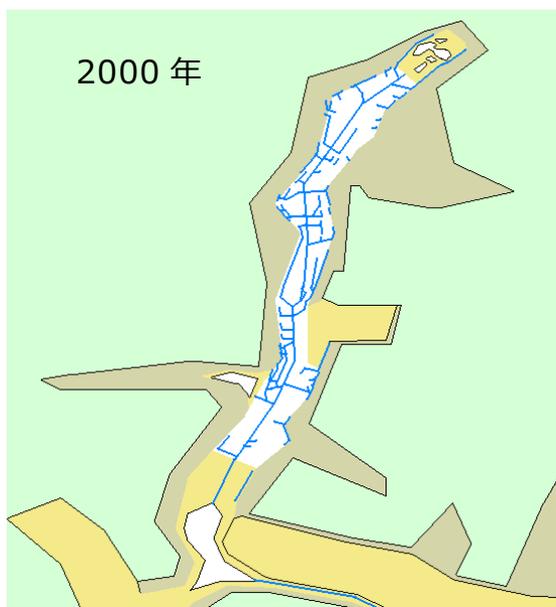


図01 減少する長田谷津の水路

図は、長田谷津の幅を横幅だけ2倍にして見やすくしたものです。白い部分が自然状態の谷底で、そこに水路を線で示している。谷の中央を貫くのが中央水路。

能な水ですが、地中の水は植物しか利用できません。水路の減少は、水に依存する生物の減少につながります。トンボやホタル、いろいろな水生昆虫、カエルや貝、魚などです。

天井川化する中央水路

長田谷津の中央を流れる水路（通称：中央水路）にも同様の現象が起きています。雨のたびに土砂まじりの水が流れ、すこしずつ堆積しています。さらに中央水路にヨシが繁茂することで、土砂の堆積は進みます。年々浅くなり、ついには上流の一部で、周囲の湿地よりも中央水路の川底の方が高い状態になりました。いわゆる「天井川」の状態です。写真01がその様子ですが、コウホネの葉が水面から突き出している様子から、水深が数センチに過ぎないことが

わかります（本来コウホネの葉は水面に広がります）。

このまま放置すれば、いずれ中央水路の土手の低い場所から水は周囲に流れだし、中央水路の流路が蛇行をはじめます。自然公園なのでそれはそれで構わないのかもしれませんが、稲作を行っていた時代の景観を公園の基準にしていますので、中央水路はそのまま維持する方針でいます。斜面裾の湧水が水の供給、中央水路が水の排出を担い、斜面裾と中央水路の間で、さまざまな水環境を作り出していくという考え方は、その意味で、小さな水路が埋まっている現状は改善が必要です。小さな水路や水のたまりを多数作り出すことで、観察できる動植物の種類と数を増やすことができます。



写真 01 天井川になった中央水路

水路の中の楕円形の葉がコウホネの葉。通常、茎の部分は水中にあるが、ここでは水深がごく浅いため。ほとんど露出している。川底が埋まったため浅くなった。



ネモフィラ

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を、
このコーナーでは紹介しています。

ネモフィラは、春に青い美しい花を咲かせる1年草です。

数年前にプランターで育てた時のタネが庭にこぼれ

毎年、どこかで開花します。

庭で咲くうちはいいのですが、これが敷地の外に広がると、

植物リストでは「逸出種」とされて警戒されます。

さらに爆発的に増えると外来植物として駆除の対象にもなりますが、

長く頑張れば、やがて帰化植物として受け入れられます。

ネモフィラとよく似たオオイヌノフグリが、

こうして受け入れられた植物の代表です。



街かど自然探訪

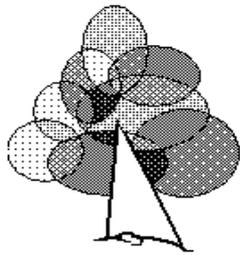
おじゃまします!

ひらた 平田・地下に造られる道

平田緑地入口付近から見た、東京外かく環状道路(外かん)の工事現場です。京成線と国道14号線の下をくぐるための、地下の道が造られていました。真上に京成菅野駅があります。右の写真、中央下の丸の中に見える人影からも、地面を掘って作られた空間の巨大さがわかります。道路が開通する頃には、一部を除いて埋まってしまい、このような構造物があることも隠されてしまいます。工事途中にしか見られない光景でした。



△京成菅野駅付近の様子。(平成28年12月14日撮影)
南側(国道14号線側)から見た工事現場の様子。
上の段が一般国道、下の段が高速道路になります。



くすのきのあるバス通りから No.112

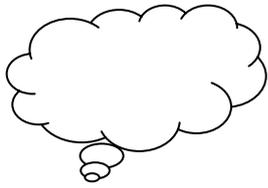
ヨコヅナサシガメがいました

大潮の日に、木更津の海に面したホテルで、盤洲干潟の満潮から干潮になるまでの様子を見ました。沖合の海苔ヒビの辺りまで広大な干潟が現れ、小櫃川と千葉の山がこのままであって欲しいと思いました。その後、三番瀬で採ったアサリを知り合いから2回いただききました。この時期タケノコやフキなどもやり取りし、縄文人の気分です。

真間川は浅間橋の辺りでは引き潮の時、音をたてて流れ兩岸の矢板より水位が低くなります。「ソメイヨシノに外来種のクビアカツヤカミキリの被害

が出ている」とのテレビの情報を見て、真間川沿いのサクラを見て歩きました。木くずなどの食害は見つかりませんでした。八幡橋の近くの2本のサクラに10匹位ずつ平たい黒と白の模様の虫が「木の住所の木札」の近くに集まっていました。1匹だけ赤い大き目の物もいました。しばらく見ていましたが、樹液を吸うわけでもなく、突然「解散!」と言われたかのように、上の方へ散らばっていきました。ケムシやイモムシの体液を吸うヨコヅナサシガメだそうです。脱皮直後は赤いそうです。

(M. M.)



展示室



飼育生物の話題



アシダカグモは、電話での問い合わせが多い生き物のひとつです。「うちの中にでっかいクモがいた!」「タランチュラみたいなクモを見つけたけど毒グモ?」といった感じです。古くからある民家では珍しいクモではありませんが、完全夜行性なので出会う機会は多くありません。じつは長くいっしょに暮しているのに、はじめて出会った時の衝撃が大きいのです。

この春、御自宅で捕まえたアシダカグモについて持込みでのお尋ねがあり、説明後、そのままクモをいただくことになりました。アシダカグモの主食はゴキブリです。ためしに弱ったゴキブリを入れておいたら、翌朝には中身を吸われてクシャクシャの状態になっていました(写真は食事の様子)。鳴く虫のクビキリギスを入れたら、翌朝にはきれいに中身だけ食べられ標本のようになっていました。ですが、ツチイナゴは何日も食べられずにいました。改めてゴキブリを入れて観察すると、ゴキブリが動き出した途端、追いかけて捕えました。一瞬でした。どうやら、同じ平面上でのスピード勝負が得意なようで、立体的に行動するツチイナゴは苦手だったようです。観察しがいのあるクモでしたが、展示は短命で終わりました。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・ウグイスカグラが近くの雑木林で咲いていたので、もしかしたらと思って見てみると、やっぱり咲いていました(3/4)。花のピンク色と雄しべの黄色が春らしい色合いです。
- ・業者の人に大きな木を切ってもらって枝の始末もしてもらいました。景観的にももう少し片付けたかったので作業をしていたら、積み重ねた枝の下にサワガニがいました(3/11)。作業で人が歩いた時に、冬眠していた土の中から出てしまったのかもしれませんが。暖かい日だったので、元気に動いていました。
- ・小雨まじりの日、シジュウカラの群れが湿地の枯草の中に降りてきました(3/14)。枯葉の中の餌を探していました。木々の枝葉では餌が見つからない季節だからこそ、地上に降りてきてくれます。季節を感じる光景です。
- ・ミツバアケビの、濃いエンジ色の花が咲き始めました(4/4)。いろいろな木やツルが芽吹き、合わせて花が咲き始めていました。
- ・斜面林ではイヌシデが咲き、ヤマザクラが咲き、続いてクヌギやコナラがきれいに咲きました(4/18)。やがて木の下には雄花の穂がゴミのようになってたまっていきます。
- ・何日か前から、コマドリが来ていたようです(4/22)。この日も観察や撮影の人がマナー良く集まっていました。声は離れた場所でも聞こえてきました。

◆市営霊園より

- ・霊園の外周斜面は雑木林で、草刈りする範囲は草原的な環境になっています。ホタルカズラの青い花がいくつも咲いていて、そばにはジュウニヒトエの株もありました(4/26)。

◆動物園内より

- ・朝早い園内では、カケスが地面に降りて餌を探していました(3/20)。近づくと飛び立って、そばの木の枝に止まりました。5羽ぐらいいました。

◆日之出より

- ・行徳の日之出に行きました(3/17)。コンクリートの護岸は見た目には味気ないものでしたが、足元ではオオイヌノフグリの青い花が鮮やかで、ヨモギの若葉もみずみずしい緑色でした。これはこれで、ひとつの春の風景だと思いました。

◆江戸川放水路より

- ・堤防土手で、幼稚園の子どもたちと花摘みをしました(4/25)。袋の中に花ではなくナナホシテントウがいっぱいの子もいました。
- ・堤防土手にはアカツメクサが多く生え、それが幼虫の餌になるモンキチョウもよく見られます(4/25)。元気に飛んでいました。

以上 金子謙一

春の進みは、暖かくなったり寒さが戻ったり、行きつ戻りつ進みました。桜が咲いてから冷える日もありました。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

水辺の生きものを自分たちで捕まえて観察します。

おやこで楽しめる自然観察会です。

- ・場所 自然観察園
- ・時間 午前10時～12時
- ・定員 各回とも、先着 親子20組
親子対象です。

日にち	受付開始日
7月 9日⑩	6月17日より
8月13日⑩	7月15日より

お申し込み方法

受け付け開始日以降に
往復はがきに参加者全員の
住所、氏名、年齢、電話番号、
返信面に返信の宛先を明記の上、
下記までお申込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「〇月観察会」係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 7月1日⑩、8月5日⑩、9月2日⑩、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合場所
堤防からながめる 賑やかな干潟	7月8日⑩ 午前10時～11時30分	妙典小学校前の 江戸川堤防 午前10時
初秋の江戸川土手	9月17日⑩ 午前10時～11時30分	里見公園正門 午前10時

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。

(雨天中止)

- ・日時 6月25日⑩、9月24日⑩、午前10時～12時 (7月・8月はお休み)
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けを
お手伝いしていただきませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 7月2日⑩、8月6日⑩、9月3日⑩、
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、
博物館までお電話でお問い合わせください。

第29巻 第2号 (通巻第170号)

平成29年6月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>